

4 異物毎分析ポイント

4 - 1 虫

(1) 形態観察

- ・ 広義の虫（昆虫、クモ、ムカデを含む）では節及び毛を持った外骨格を持つ。
- ・ 足の本数は種類によって違うが、頭部・胸部及び腹部の3部、6本の脚、1対の触覚及び体表への繊毛の有無を観察する。

(2) 簡易分析

- 水との反応
水に浮く、水をはじく。
- カタラーゼ試験
非加熱だと、気泡が出た後、泡が絶え間なく発生する。泡が出なければカタラーゼ活性が失活している。
＊カタラーゼは、熱以外にも、経過時間や保管条件（アルコール、pH など）によって、カタラーゼ失活する場合がある。

(3) 機器分析

- ・ 実施しない。

(4) 異物鑑定のポイント

- ・ 防虫業者による鑑定が有効。
- ・ 形態観察。
- ・ 食品により発生する害虫は異なる（穀類ならノシメマダラメイガ、シバンムシ等）。
- ・ 工場の配管等ではチョウバエ等が見られる。

(5) 混入経路の参考

- ・ 食品、工場によって発生する害虫は異なるため、定期的なモニタリングが参考になる。
- ・ 食品包装内に見つかった場合、外部からの侵入かどうかは包材に穴が開いているか調査する。
- ・ 昆虫の破片のみや、ちぎれて見つかることもある。